

北海道の農林水産業の概要

特徴・取組

北海道の総土地面積は8万3,422km²で、国土の約22%を占め、北海道本島と1,472の島からなっている。

また、日本列島の最北に位置し、梅雨の影響の少ない冷涼な気候の下、農地や森林などの広大な土地、周りを囲む世界有数の漁場など、資源に恵まれた地域である。

道内総生産は20兆5,409億円（令和3年度）で、産業別構成比は第1次産業が3.9%（全国1.0%）、第2次産業が17.8%（全国26.5%）、第3次産業が77.0%（全国71.9%）となっており、全国に比べ第1・3次産業の割合が高くなっている。また、農業・農村は食品加工業や観光業など幅広い産業と結びつき、地域経済の活性化や雇用の確保に貢献している。

北海道は、積雪期間が長いなど特に冬期の自然環境は厳しいものの、全国の約4分の1の耕地面積を活かし、地域ごとに異なる気候や土地条件に合わせて稲作、畑作、酪農などを中心とした多様な農業生産が展開されている。

北海道の農業産出額は1兆3,478億円で、全国の14.1%（全国第1位）を占めている。また、生乳、ばれいしょ、たまねぎ、軽種馬、小麦など多くの品目が全国第1位である。

北海道の1経営体当たり経営耕地面積は34.1ha（都府県の13.6倍）、1戸当たり乳用牛飼養頭数は158.9頭（同2.2倍）、肉用牛飼育頭数は263頭（同4.3倍）で規模が大きく、農業経営体（個人経営体）のうち主業経営体の割合は74.4%（都府県19.3%）と、大規模で専門的な経営が展開されている。

カロリーベースの食料自給率（令和4年度概算値）は218%（全国第1位）で、我が国最大の食料供給地域として重要な役割を担っている。

北海道では、「北海道食の輸出拡大戦略」に基づき、生産者や事業者、支援機関等が連携しながら食の輸出拡大に取り組んできた結果、道産食品の輸出額は令和4年に1,768億円となり、令和5年も1,500億円を超える見込みで、第Ⅱ期戦略の令和5年輸出目標額1,500億円を達成。一方、ALPS処理水放出に伴う中国での日本産水産物の輸入停止措置や景気の冷え込みなど、カントリリスクも明らかになった。

このため、今後は特定の品目や地域に偏らないリスク分散に対応した取組を進め、北海道ブランドの浸透や市場の拡大に弾みをつけるとともに、輸出を含めた食料の供給能力の維持を図り、北海道の食の輸出をさらに成長させ、道内食関連産業の持続可能な発展を図ることとし、第Ⅲ期戦略における令和10年の輸出目標額を1,650億円とした。道では、引き続き、道内事業者の輸出拡大に向けた取組をオール北海道で支援。

主な農林水産物

生乳

道東・道北の酪農地帯を中心に道内各地で生産され、生産量は全国の58%を占めている。（生産量全国1位）



ばれいしょ

道内各地で生産され、全国に供給する主力野菜である。収穫量は全国の81%を占めている。（収穫量全国1位）



米

道央・道南地域を中心に生産され、収穫量は全国の8%を占めている。主な品種は「ななつぼし」となっている。（水稲収穫量全国2位）



小麦

道内各地で生産され、収穫量は全国の69%を占めている。主な品種は「きたほなみ」、「ゆめちから」、「春よ恋」となっている。（収穫量全国1位）



たまねぎ

道内各地で生産され、ばれいしょと並ぶ主力野菜である。収穫量は全国の64%を占めている。（収穫量全国1位）



てんさい

北海道でのみ栽培されている作物で、糖類の原材料となる。主に道東の畑作地帯で生産されている。（収穫量全国1位）



小豆

道東の畑作地帯を中心に道内各地で生産され、収穫量は全国の97%を占めている。（収穫量全国1位）



ながいも

主に道東の畑作地帯を中心に生産され、収穫量は全国の55%を占め、農産物輸出の代表品目である。（収穫量全国1位）



ほたてがい

海面漁業漁獲量は全国のほぼ全量を占め、水産物輸出の代表品目である。（漁獲量全国1位）



すけとうだら

近海の豊富な海洋資源に恵まれ、海面漁業漁獲量は全国の92%を占めている。（漁獲量全国1位）



北海道内の各地域における農林水産物

石狩、留萌、上川、空知、胆振、日高地域

【農畜産物】水稲、大豆、そば、なたね、キャベツ、ブロッコリー、たまねぎ、かぼちゃ、トマト、メロン、すいか、花き、軽種馬、肉用牛
 【特用林産物】生しいたけ

後志、渡島、檜山地域

【農産物】水稲、ばれいしよ、にら、だいこん、アスパラガス、ねぎ、きゅうり、トマト、メロン、すいか、りんご、ぶどう、おうとう（さくらんぼ）、花き

日本海地域

【水産物】ほっけ、たら類、にしん、かれい、たこ、ぶり、するめいか

宗谷、根室、釧路地域（酪農）

【農畜産物】乳用牛（生乳）、牧草

オホーツク海地域

【水産物】ほたてがい、さけ類、たら類

太平洋東部地域

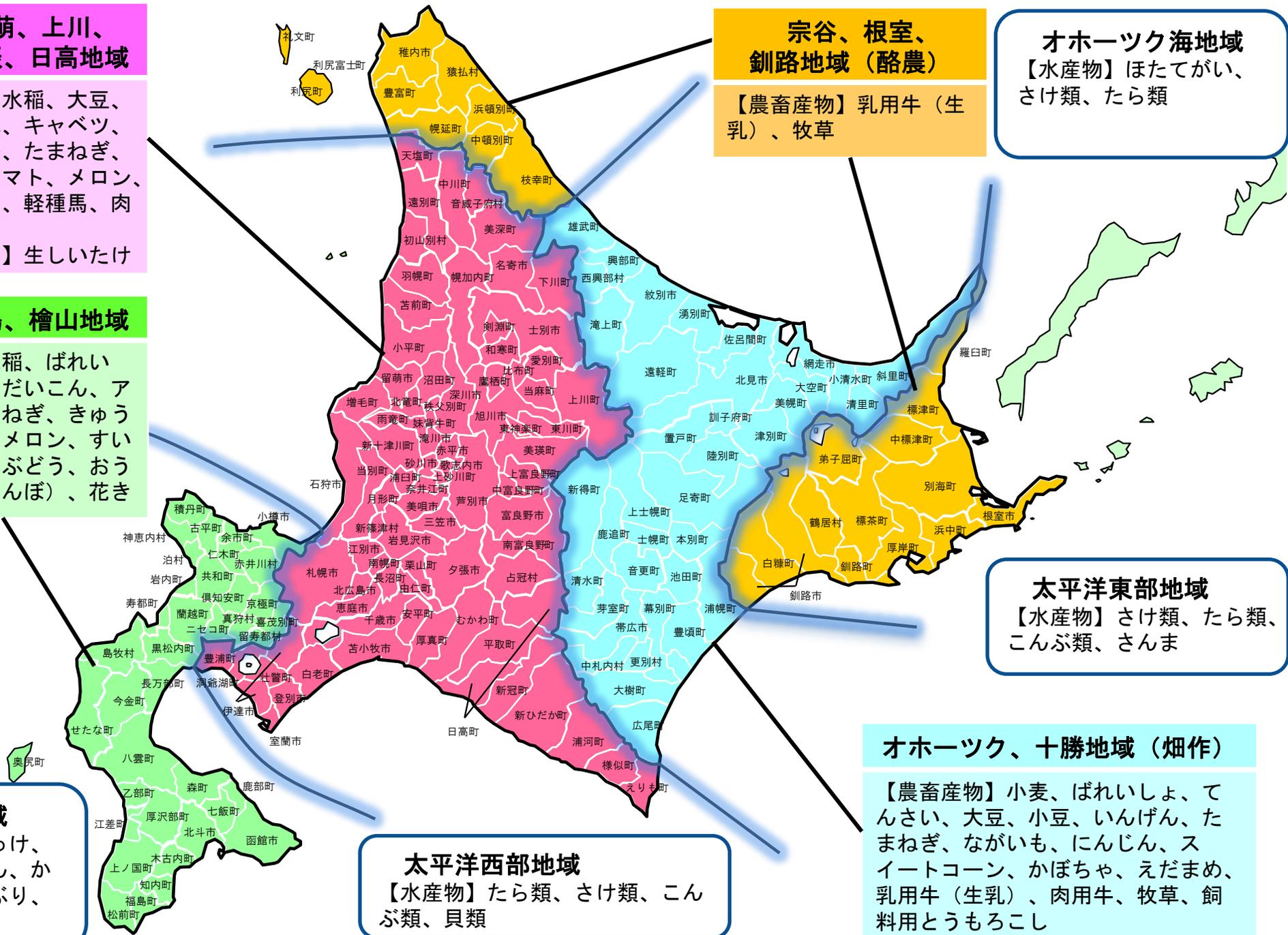
【水産物】さけ類、たら類、こんぶ類、さんま

オホーツク、十勝地域（畑作）

【農畜産物】小麦、ばれいしよ、てんさい、大豆、小豆、いんげん、たまねぎ、ながいも、にんじん、スイートコーン、かぼちゃ、えだまめ、乳用牛（生乳）、肉用牛、牧草、飼料用とうもろこし

太平洋西部地域

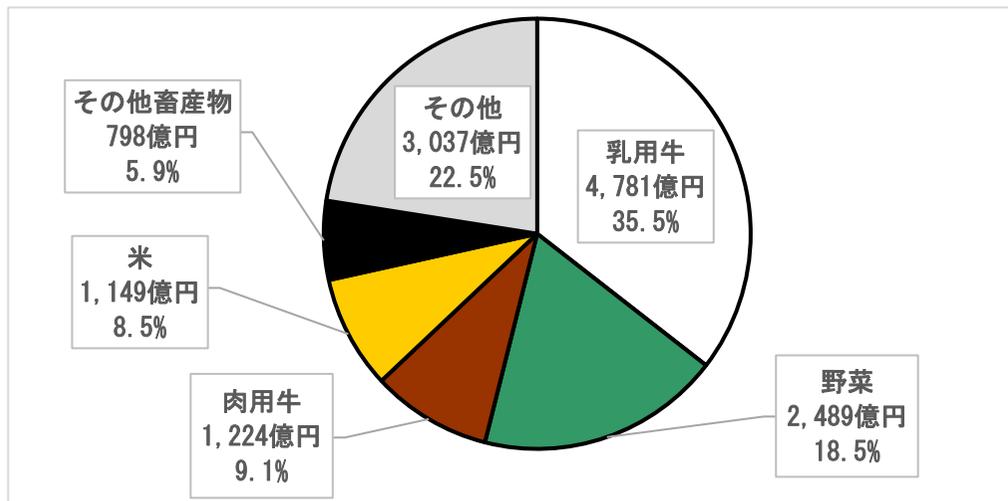
【水産物】たら類、さけ類、こんぶ類、貝類



北海道の農業（1）

- ・農業産出額は13,478億円 で全国1位。うち米が1,149億円（8.5%）、野菜が2,489億円（18.5%）、畜産が7,837億円（58.1%）。
- ・農畜産物の生産状況は、小麦、てんさい、小豆、ばれいしょ、たまねぎ、ながいも、乳用牛、肉用牛、生乳が全国1位。

農業産出額の概略



農畜産物の生産状況

区分	年次	北海道	全国	全国順位
水稲	収穫量	562,400 t	7,345,000 t	2
小麦	収穫量	714,200 t	1,029,000 t	1
てんさい	収穫量	3,485,000 t	3,485,000 t	1
小豆	収穫量	45,300 t	46,700 t	1
ばれいしょ	収穫量	1,916,000 t	2,364,000 t	1
たまねぎ	収穫量	752,500 t	1,174,000 t	1
ながいも	収穫量	80,600 t	146,600 t	1
乳用牛	飼養頭数	821,500 頭	1,313,000 頭	1
肉用牛	飼養頭数	558,500 頭	2,672,000 頭	1
生乳	生産量	4,233,050 t	7,357,451 t	1

出典：「作物統計」、「特定作物統計調査」、「野菜生産出荷統計」、「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」

農業産出額のデータ

区分	北海道の農業産出額	全国の農業総産出額	全国順位
農業産出額	13,478 億円 (100.0)	94,952 億円 (100.0)	1
米	1,149 億円 (8.5)	15,193 億円 (16.0)	2
麦類	408 億円	678 億円	1 *
雑穀	27 億円	77 億円	1
豆類	293 億円	572 億円	1
いも類	591 億円	2,301 億円	1
野菜	2,489 億円 (18.5)	23,243 億円 (24.5)	1
果実	96 億円 (0.7)	9,590 億円 (10.1)	23
花き	117 億円	3,522 億円	10
工芸農作物	417 億円	1,467 億円	1
その他作物	55 億円	585 億円	2 *
畜産	7,837 億円 (58.1)	37,212 億円 (39.2)	1
肉用牛	1,224 億円	7,696 億円	1
乳用牛	4,781 億円	9,249 億円	1
生乳	4,341 億円	8,310 億円	1
豚	608 億円	7,194 億円	2
鶏	426 億円	12,033 億円	8
鶏卵	264 億円	7,413 億円	14
ブロイラー	161 億円	4,471 億円	5 *
その他畜産物	798 億円	1,041 億円	1
加工農産物	- 億円	513 億円	-

出典：「令和5年農業総産出額及び生産農業所得(全国)」、「令和5年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」
注：() は農業総産出額及び農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方
 ・令和7年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用
 ・表中に使用した記号は次のとおり
 「O」：単位に満たないもの(例:0.4t→0t)
 「-」：事実のないもの
 「…」：調査を欠くもの
 「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。
 「*」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

北海道の農業（ 2 ）

- ・耕地面積は113万8,000haで全国1位。うち田が22万700ha、畑が91万7,300ha。
- ・農業経営体数は3万4,913経営体で全国8位。うち法人経営体が4,047経営体で1位。
- ・市町村認定及び都道府県認定経営体数は2万6,973経営体で全国1位。うち法人数が3,956法人で1位。
- ・農業生産関連事業は、農産加工の年間販売（売上）金額が1,252億円で全国1位、事業体数は1,020事業体で5位。

耕地面積

区分	北海道	全国	全国順位
耕地面積	1,138,000 ha	4,272,000 ha	1
田	220,700 ha	2,319,000 ha	1
畑	917,300 ha	1,952,000 ha	1
普通畑	417,800 ha	1,118,000 ha	1
樹園地	3,030 ha	248,600 ha	26
牧草地	496,400 ha	585,900 ha	1
参考) 総土地面積	83,422.27 Km ²	377,975.68 Km ²	1

出典：「令和6年耕地面積(7月15日現在)」、「令和7年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区分	北海道	全国	全国順位
荒廃農地面積	1,109 ha	256,676 ha	42

出典：「令和5年度の荒廃農地面積(令和6年3月31日現在)」

農業経営体数、総農家数及び集落営農数

区分	北海道	全国	全国順位
農業経営体数	34,913 経営体	1,075,705 経営体	8
法人経営体	4,047 経営体	30,707 経営体	1
総農家数	37,594 戸	1,747,079 戸	21
販売農家	32,232 戸	1,027,892 戸	9
参考) 世帯総数	2,476,846 世帯	55,830,154 世帯	7
集落営農数	194 集落営農	13,998 集落営農	28

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和6年集落営農実態調査結果(令和6年2月1日現在)」

担い手への農地の集積状況

区分	北海道	全国	全国順位
担い手への集積面積	1,046,972 ha	2,593,345 ha	1
集積率	91.8 %	60.4 %	1

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和5年度版)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区分	北海道	全国	全国順位
基幹的農業従事者数	70,643 人	1,363,038 人	1
男	40,423 人	822,144 人	1
女	30,220 人	540,894 人	1
65歳以上	28,630 人	948,621 人	10
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	40.5 %	69.6 %	-
国、市町村認定及び都道府県認定経営体数	26,973 経営体	216,784 経営体	1
法人数	3,956 法人	29,128 法人	1
参考) 人口総数	5,224,614 人	126,146,099 人	8

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和6年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

農業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区分	北海道	全国	全国順位	
農産加工	総額	125,179 百万円	999,786 百万円	1
	事業体数	1,020 事業体	27,760 事業体	5
農産物直売所	総額	29,422 百万円	1,126,420 百万円	13
	事業体数	1,160 事業体	21,240 事業体	2
観光農園	総額	2,211 百万円	37,281 百万円	4
	経営体数	210 経営体	5,050 経営体	7
農家民宿	総額	327 百万円	5,352 百万円	4 *
	経営体数	100 経営体	1,140 経営体	3
農家レストラン	総額	2,656 百万円	39,434 百万円	1 *
	事業体数	120 事業体	1,360 事業体	1

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

北 海 道 の 林 業

- ・ 林業産出額は434.0億円で全国3位。うち木材生産が349.5億円、栽培きのご類生産が76.7億円。
- ・ 林産物の生産状況は、素材生産量が全国1位、からまつ、えぞまつ・とどまつが全国1位、黒炭、薪が2位。

林業産出額

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
林業産出額	434.0 億円	5,562.5 億円	3
木材生産	349.5 億円	3,257.0 億円	1
栽培きのご類生産	76.7 億円	2,199.2 億円	4

出典：「令和5年林業産出額」

林野面積

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
林野面積	5,503,768 ha	24,770,201 ha	1
国有林	2,915,580 ha	7,153,338 ha	1
民有林	2,588,188 ha	17,616,863 ha	1
人工林面積	1,473,108 ha	10,133,111 ha	1

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業経営体数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
林業経営体数	4,565 経営体	34,001 経営体	1
法人経営体	675 経営体	4,093 経営体	1

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林産物の生産状況

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
素材生産量	3,008 千m ³	20,647 千m ³	1
針葉樹	2,563 千m ³	18,926 千m ³	1 *
からまつ	1,200 千m ³	1,837 千m ³	1 *
えぞまつ・とどまつ	1,241 千m ³	1,241 千m ³	1
広葉樹	445 千m ³	1,721 千m ³	1 *
黒炭	生産量 430 t	3,416 t	2 *
生しいたけ	生産量 3,562 t	63,374 t	5
木質粒状燃料	生産量 16,517 t	158,646 t	3 *
薪	生産量 15,555 層積m ³	100,167 層積m ³	2 *

出典：「令和5年木材統計」、「令和5年特用林産基礎資料」

製材工場数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
製材工場数	161 工場	3,749 工場	2
製材用素材の入荷があった工場数	161 工場	3,722 工場	2
国産材のみ	157 工場	3,116 工場	1
国産材と輸入材	4 工場	511 工場	34

出典：「令和5年木材統計」

北 海 道 の 漁 業

- ・ 漁業産出額のうち、海面漁業・養殖業産出額は2,836億円で全国1位。
- ・ 水産物の生産状況は、海面漁業のすけとうだら、ほたてがいが全国1位、海面養殖業のほたてがい、こんぶ類が1位、内水面漁業のさけ類が1位。
- ・ 漁業生産関連事業は、水産加工、水産物直売所の年間販売（売上）金額が584億円、69億円 で全国1位、事業体数は200事業体、90事業体で1位。

漁業産出額

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	2,836 億円	15,265 億円	1
海 面 漁 業	2,396 億円	9,534 億円	1
海 面 養 殖 業	440 億円	5,731 億円	4

出典：「令和5年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	9,845 経営体	65,662 経営体	1
内水面漁業経営体数	139 経営体	4,076 経営体	8

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	19,938 人	121,389 人	1
男	18,003 人	109,757 人	1
女	1,935 人	11,632 人	1

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
漁船隻数	17,068 隻	109,283 隻	1
動力漁船	6,279 隻	58,906 隻	1

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	957,063 t	3,777,921 t	1 *
海面漁業漁獲量	842,704 t	2,926,411 t	1
すけとうだら	113,731 t	123,011 t	1 *
ほたてがい	330,176 t	330,592 t	1
海面養殖業収穫量	114,359 t	851,509 t	1 *
ほたてがい	87,264 t	151,311 t	1
こんぶ類	20,716 t	25,741 t	1 *
内水面漁業・養殖業生産量	8,398 t	51,908 t	1 *
内水面漁業漁獲量	8,277 t	21,567 t	1 *
さけ類	7,771 t	8,034 t	1 *
内水面養殖業収穫量	121 t	30,341 t	24 *
にじます	96 t	4,734 t	13 *

出典：「令和5年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位	
水産加工	総額	58,443 百万円	179,159 百万円	1 *
	事業体数	200 事業体	1,220 事業体	1
水産物直売所	総額	6,893 百万円	34,988 百万円	1 *
	事業体数	90 事業体	810 事業体	1
漁家民宿	総額	246 百万円	5,389 百万円	6 *
	経営体数	30 経営体	540 経営体	3
漁家レストラン	総額	1,048 百万円	13,249 百万円	3 *
	事業体数	20 事業体	380 事業体	4

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

北海道の農林水産業の話題等（1）

環境に優しい農業の展開

世界的に持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、カーボンニュートラルの実現に向けた取組が重要視される中、農業生産に由来する環境への負荷の低減を商機に結び付ける取組や、新素材の開発を通じて化学肥料の使用量の低減を図る取組など、環境に優しい農業を軸に地域の特色ある農林水産資源を活かした様々な取組が展開されている。

■ 道内の取組状況

○JAきたみらい（北見市）

同JAは、ホクレンと連携して、「サステナブルたまねぎ」の販売を開始。本商品はJA管内で土づくりを基本に化学肥料・化学合成農薬の使用を必要最小限に抑えた特別栽培農産物。

「環境に配慮し、無駄な資源を使わない「持続可能なたまねぎ」」をキャッチコピーとしており、環境負荷低減の取組を「見える化」するために「みえるらべる」を表示。これまで道内の「みえるらべる」の取組は直売所等の小規模な取組が中心だったが、令和6年12月から道内大手スーパーで本商品が販売されたことで、広く環境保全型農業の意義に対する消費者の理解が深まり、販売の付加価値にもつながることが期待される。

○中標津農業高校（中標津町）

同校は、微生物の特性を活かした微生物由来の肥料を開発し、地場産野菜の持続的な生産を目指す。

肥料代の高騰対策や環境保全型農業の確立が求められているなか、作物の生育向上等の効果が期待されている「光合成細菌」に着目。地元企業との連携のもと光合成細菌の特性理解と培養技術を習得。光合成細菌の自家培養に成功し、野菜栽培における有効性を検証。

生産した野菜は市場や農協を通じて、地元の小売店や飲食店で販売・提供され、地場産野菜の普及につなげた。現在は誰でも使えるよう光合成細菌のキット化に向け培養試験や有効性試験を進めている。

同校は「第1回みどり戦略学生チャレンジ」全国大会で農林水産省大臣官房長賞を受賞。

○よつ葉乳業（株）（音更町）

同社は、エア・ウォーター（株）と連携し、令和6年5月から家畜のふん尿由来のLBM（液化バイオメタン）を製造工場のエネルギーとして利用を開始。

エア・ウォーター（株）が十勝管内の牧場で排出されるふん尿で作られるバイオガスからLBMを製造し供給。よつ葉乳業（株）の工場でLNG（液化天然ガス）にLBMを混合し、製品製造等の熱源として、装置を変更することなく使用。LBMの商用利用は国内初の取組で、この取組により年間150t（令和6年度）の二酸化炭素の削減が見込まれる。

○JAきたみらい（北見市）



販売の様子



「みえるらべる」を表示した玉ねぎ

○中標津農業高校（中標津町）



研究班メンバー



光合成細菌の培養

○よつ葉乳業（音更町）



工場にLBMを搬入する
タンクローリー



LBMの荷下ろしの様子

北海道の農林水産業の話題等（2）

スマート農業の展開

農業の現場で急速に普及するスマート農業。特に、スケールメリットを有する北海道では、ロボット技術やAI、IoT等の情報通信技術を駆使して先駆的なスマート農業を実践。大学での新技術開発から産地全体でのシステム構築まで幅広い取組がみられる。

■ 道内の取組状況

○北見工業大学（北見市）

同大学では、玉ねぎの中間除草における負担の軽減や環境負荷の低減等を目的として、電動で駆動する農業用車両（EVクローラ）とAI画像認識技術を組み合わせて除草作業を自動化するロボットを開発。

農林水産省主催「第1回みどり戦略学生チャレンジ」全国大会で大臣官房長賞を受賞。

○しかりべつ高原野菜出荷組合 加工キャベツ部会（鹿追町）

同部会では「精密出荷予測システム」を導入し、栽培履歴等のデータを生産部会やJA鹿追町のサービス事業・流通事業部門と共有・活用を行う。システムにより適期収穫、集荷場への搬入スケジュールの調整、集計コストの削減や作業員の計画的な手配、予冷库への搬入を効率化。また、栽培履歴等のデータ分析を通じて、産地全体の品質・収量の向上に向けた肥培管理にも活用し、収益性を向上。

北海道内のスマート農業技術活用促進法に基づく生産方式革新実施計画の第1号に認定。

道内における新作物の産地形成の取組

北海道では、寒冷地という地域の特性上、育てにくいとされていた農産物があるが、近年、気候変動等の影響もあり、「にんにく」、「さつまいも」、「らっかせい」などの新作物の生産拡大・産地形成を目指す動きがみられる。

■ 道内の取組状況

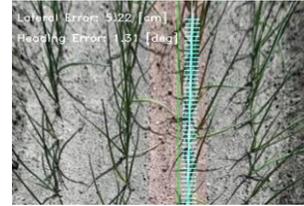
○さつまいもの栽培（各地）

近年の気候変動等の影響により道内での作付けが広がりを見せている。令和2年で25haだった作付面積は、令和5年で100haまで拡大。帯広市、由仁町、栗山町、旭川市や函館市等でさつまいもの産地形成が取り組まれている。農研機構では、冷涼地でも収量の確保ができる低温耐性のある品種を開発。舌触りが滑らかで雪のような口溶けから「ゆきこまち」と命名。近年のさつまいもの需要増加と品不足の打開策として期待されている。

○JAところ（北見市）

ところピンクにんにくは北見市常呂（ところ）町で栽培されており、製薬会社が医薬品及び健康食品などの原料として利用したり、JAところによる作付け拡大の支援等により、産地強化が進められている。収穫時のピンク色の外皮と、越冬するために蓄えた栄養成分によって生まれる強い風味が特徴で、スナック菓子やコンビニのラーメン等にも使用された。

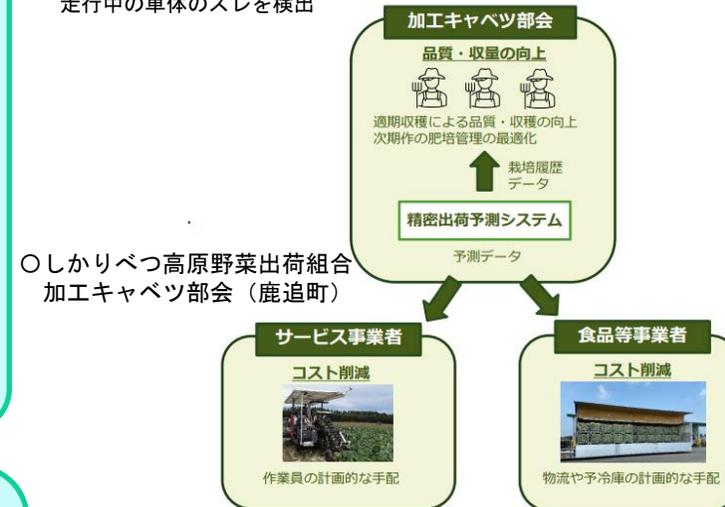
○北見工業大学（北見市）



AI画像認識で、
走行中の車体のズレを検出

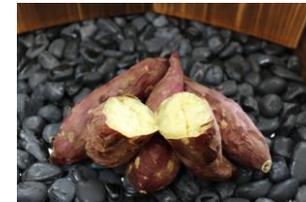


走行実験の様子



○しかりべつ高原野菜出荷組合
加工キャベツ部会（鹿追町）

○さつまいもの栽培



「ゆきこまち」の焼き芋



「ベニアズマ」(左)と「ゆきこまち」(右)の塊根

○JAところ（北見市）



ところピンクにんにく



収穫時のところピンクにんにく